

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300582		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	グループホームうぐいすの里 こもれびの家	ユニット名	れんげ
所在地	宮城県栗原市鶯沢南郷広面46		
自己評価作成日	令和 4年 10月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺には診療所・学校(小学校、幼稚園、保育所)・鶯沢総合支所があり、医療・教育・福祉が一歩化した環境になっている。交流も定期的に行われていたが最近ではコロナの影響によって中止が相次いでいる状況。外に出る機会が減ってしまった為、職員が試行錯誤しながら毎日のレクリエーションに力を入れている。また、幼稚園、保育所が近い為運動会の練習の様子が施設から見えたり、子供たちの元気な声が聞こえてくるなどとても良い刺激となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 11月 4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

栗原市中央部を流れる二迫川沿いの集落の一角に法人の特別養護老人ホームや軽費老人ホームなどの福祉施設が建ち並び、その中に2ユニットのホームがある。職員は、入居者の日常の会話から思いを汲み取り、入居者の立場に立って個々のペースに合わせ支援している。ホームは家族のような暖かい雰囲気があり、入居者は職員と共に大きな声で笑い、楽しい日々を送っている。前回の外部評価で次のステップとして期待され、ホームの目標とした「身体拘束や虐待防止の事例検討を行う」ことについては、勉強会は行ったが実践に繋げるには至らなかった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名うぐいすの里こもれびの家)「ユニット名 れんげ」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内の見える所に貼ったり、職員が目につきやすい所に貼ったりしている。確認する時間や振り返る時間を作るようにしている。	法人理念の「一人ひとりの毎日を明るく楽しく幸せにする」に基づいて、ユニットごと「楽しい思い出を作る」や「健康で明るく楽しく」の目標を作り支援し、明るい笑い声が響いている。4月に理念の振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	面会禁止も続いており、地域行事への参加も出来なかった。	地域行事の敬老会や夏祭りが中止になり参加できなかった。ホームの秋祭りに保育所の園児が訪れ、駐車場で遊戯を披露した。地域推進委員会に施設長が参加している。ボランティアがホームの草取りをしてくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加や交流の機会が無く思うように地域との付き合いを築くことが出来なかった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの感染対策の為会議は開催せず、資料配布のみとなっている。推進委員の方々から意見や質問を頂き、次回の資料で返答している。	メンバーは小学校校長や幼稚園・保育園園長、区長、市職員、地域包括職員、民生委員等である。会議は入居者の状況や「うぐこも便り」等を配布し、意見をもらっている。意見に応え、食事のメニューを配った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料で実情等を知らせている。地域包括支援センターからも研修の案内などを頂いたりしている。	生活保護の入居者の状況確認に市の担当者が訪れる。市役所支所が道路向かいにあり、介護保険の書類の確認等に出向いている。市のケアマネ研修会等に参加している。地域包括から空き状況の問い合わせがある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より、身体拘束廃止委員を各ユニットに設け、毎月1回、チェックリストをもとに職員間で確認を行っている。	身体拘束廃止委員会のメンバーは施設長や事務長、生活相談員、ケアマネ、介護員、看護師である。リスク者の対応について報告しているが、グレーゾーンについて検討している記載が無く、身体拘束をしない取り組みの様子が見えない。	法人本部が作成している「うぐいすの里身体拘束廃止委員会」の資料に基づき、職員自身が日頃のケアについて振り返りを行い、現場の支援に反映させて頂きたい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックリストをもとに月1回話し合う機会を設けたり、リーフレットを読んだりしている。自分たちが行っている介護が虐待に繋がらないか考える機会を作っている。	委員会では、「リスク者に対する対応」について個別の入居者への具体的対応を記録している。職員や入居者の話から虐待の疑いがある時は、個別に話し合うとしている。必要に応じて本部に相談するとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ過の為外部の研修へ行く機会がなく、プリント配布などで周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が理解しやすい言葉の選び方を工夫している。専門用語は控えながら説明を行っている。契約の途中に不安や疑問点が無いかな聞きながら進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は担当職員へ希望などを伝える様子が見られます。家族様へは担当職員から毎月生活の様子と体調面等を手紙で報告している。	食べ物や衣類等買って欲しい要望に職員が対応している。移動売店で好きなおやつを買っている。家族が食べさせたいと果物や紫蘇巻を持って来る。面会の制約があるが、窓越しの面会やリモート面会を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや職場内巡視の際に意見や改善点など気軽に話あっている。食事も手作りを提供したいとの声が多く、昼食と夕食を手作りに変更した。	トイレの誘導時間や声掛けのタイミングを共有し、排泄の自立支援に努めている。職員の意見で、コロナ禍の運動不足緩和のためラジオ体操を行った。扇風機を増やした。早番、遅番等シフトの調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長などと個人面談を行う時間を設けていたり、その際に気兼ねなく話せる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過の為研修への参加が中々出来ない。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過の為研修会への参加はなかったが、同法人内のグループホームの管理者等に電話で相談したり、相談されたりといった繋がりを持っている。	法人の同業者と運営推進会議のやり方や「重度化や終末期の文書化」等の情報交換している。栗原中央病院から来てもらいコロナの研修を受けた。西隣の市立鶯沢診療所の看護師と連携し、受診の是非を相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査などの時に本人様に確認したり、難しい際は家族様やケアマネージャーに聞き取りを行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族様にも不安や希望を聞きながら安心して頂けるような対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の他にケアマネージャーへ連絡を取り、情報を頂いたうえで必要としている支援が出来るように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が帰る際には見送って頂いたり、家族の様に心配していただく時もある。お互いが支えたり支えられたりしている様子がある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当職員から手紙を送っており、生活の様子や体調面に関して報告している。又、広報誌も2か月に1回作成しており家族様へ配布している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と電話で話をしたり、リモート面会を行っている。同じ床屋を利用することで顔なじみの関係を気付いた方もいる。	入居者が寿司屋をしていた時の弟子が「のり巻きの作り方を教えてもらった」と面会に来たことがある。馴染みの職員が理容師しながらに毛染めをしてくれる。畑で育てた苺等を収穫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性などに配慮しながら日中の活動や、食堂の席の配置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方向性や支援の体制について一緒に考えたり、随時相談に乗ったりしている。退所後も家族様が施設へ顔を出しに来てくれたりすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	綺麗でいたいという希望の方に毛染めを支援したり、失敗した下着の回収方法などその方の希望や支援のあり方を考えながら検討している。	寿司や餡餅等を食べたい要望に誕生会等で提供している。薬を嫌がる人がおり、医師と相談し薬を減らすことができた。温泉のテレビを見て「さっぱり連れていけない」とのつぶやきを聞いて、入居者の思いを知った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の際に会話の中から見つけたり、家族に聞いたり把握している。又、サービスの利用経過に関してはケアマネージャーから情報を提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムを大切にしながら、状態にあった生活を送って頂けるよう支援している。又、残存機能の維持に努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のみならず家族からの要望も取り入れ計画を作成している。6ヶ月に1回見直しを行い、必要に応じて6か月未満でも見直しを行っている。	入居者の担当職員がモニタリングし、皆で意見を出し合い計画作成担当者が計画をまとめる。歌好きな人が歌を披露する場を用意することを盛り込んだ。退院後、車椅子から歩行できるよう計画に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌記入の他に情報共有ノートを活用し、気づきや介護計画の変更などを情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添いや入院時の洗濯等必要に応じて随時相談にのっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや交流会が中止となり地域とかがかわる事が少なかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回協力病院を受診。希望によって訪問診療を受けられている方もいる。何か症状があれば受信したり、電話で看護師に相談したりし協力を頂く事もある。	かかりつけ医受診が3名であり、訪問診療受診が1名、協力医受診が14名である。眼科、皮膚科等専門医受診の人もいる。付き添いは職員が行う。隣接の市立鶯沢診療所の看護師や法人の看護師の支援が得られる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいない為、併設している特養の看護師と連絡を取りながら、緊急時などは協力を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ過の為面会は出来ないが、洗濯物を受け取る際に状況などを伺っている。又、連携室の方からも情報を頂き入院中の状態把握を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する説明は、状態の変化に応じてその都度説明も行っている。家族の希望もできる範囲で受け入れ施設としてできる事できない事の説明を行っている。	目標達成計画の「重度化や終末期に向けたケアについて家族への説明の統一」は、文書化して説明を明確にしている。看取りは実施していない。入浴や排泄時に上体を維持できなくなったり、ゼリー食も難しい状態になると医師や家族と相談し入院や特養を勧める。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し連絡方法や対応について確認している。利用者一人一人の情報を一覧にし全職員が確認できるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難の際に、居室入口に歩行できる方なのか車いす使用者なのかが分かるように表示を行っている。非常食の種類等を栄養士と相談しながら準備を行っている。	夜間想定を含め避難訓練を2回実施している。夜勤者役や見守り等の役割を定めて、実際に即した訓練に努めている。水消火器による消火訓練も実施している。地域住民の参加はコロナ禍が収まれば期待できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレという言葉を使わないで誘導できるよう声掛けの工夫をしている。物とられ妄想がある方などへは不安が無いよう、居室の出入りに配慮している。	姓や名にさん付けであるが、ちゃん付で呼んで欲しい人もいる。「トイレへ」でなく「ちょっとお願い」等誘っている。物盗られ妄想のある入居者の支援は、その人の居るところで部屋に入り、配置を変えないように留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2択にしたりし簡単に選べるように声掛けや対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションでも参加不参加は本人に決めて頂いたり、尿意のある方に関しては時間で誘導ではなく本人のペースに合わせ介助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を楽しまれている方や毛染めを希望される方もおり職員側で支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分を分担し参加していただいている。誕生日には好きな食べ物を聞き、メニューに採り入れるようにしている。	朝は配食業者を利用し、昼食や夕食は職員が作っている。入居者は天ぷらや刺身等が好きである。月曜と木曜は自由メニューの日として、ハットやおにぎりを作っている。秋祭では中庭で豚汁やさんま、焼き芋を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食形態に合わせて栄養士と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には自分でしてもらい、介助が必要な方には職員が行っている。歯ブラシを嫌がる方もおりマウスウォッシュを使用するなどし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのサインを理解し誘導や支援につなげている。排泄パターンを知る事で全員布パンツで対応できている。	ソワソワのサインを見てトイレに誘導したり、「便所に行ってくる」と立つ人にさりげなく寄り添って支援している。入居時に紙パンツだった人が、適切な誘導で布パンツに改善できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬のみに頼ることなく体を動かす事を勧めたり、水分摂取や乳製品を勧めたりしている。又、嗜好に合わせ水分ではなくゼリーで対応したりしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の時間は決まっているが、希望や時間を聞きながら支援している。拒否がある方に対しては声掛けを工夫するなどし対応している。	2日に1回入る。バスタオルで肌を隠す等プライバシーに留意している。脱衣所は床暖とパネルヒーターでヒートショックに配慮している。入浴を拒否する人には時間を置いたり、職員を変えて「体重を計ります」等と誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休む人もいれば食堂でうたた寝する方もいる。本人が過ごしたい場所で過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルにまとめ職員が誰でも確認できるようにしている。又、薬の変更があった際には情報共有ノートを使用し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族等から生活歴を聞きながら支援に活かしている。誕生日には本人に確認し嗜好品の提供を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の為買い物などの外出支援は出来ていない。受診の際に売店で好きな菓子や飲み物を購入して来る。天気の良い日は中庭の散歩へ出掛けている。	気候のいい日は広い中庭を散歩している。外出制約の中、運動不足を軽減するためラジオ体操を毎日実施している。外気浴や外の景色を眺めるドライブ等について、実施できるよう工夫して頂きたい。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて預かっているが必要に応じて使えるようにしている。家族の希望で財布を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおり自由に利用されている。又、家族から電話があった際には本人にも代わり声を聞けるよう対応している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには皆で作成した貼り絵や工作を飾っている。又、風を嫌がる利用者も多く扇風機の場所や喚起する窓の位置などに配慮している。	時計や暦を見やすい場所に設置している。雪だるまの貼り絵やハロウィンのお化けを皆で作って壁に飾っている。もらった柿を皆で皮をむいて干し柿を作った。差し入れのタケノコを皮むきた。畑の苺等の収穫をした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の中にも一人に鳴れる空間を設けたり、ソファを設置したり思い思いの場所で過ごして頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや写真を持ち込み自由に配置して頂いている。又、外を眺めるためにと椅子やソファを持参される家族もいる。	エアコンや押し入れ、洗面台、トイレが備えてある。居室前に表札のほか、目印となる花や縫いぐるみを下げている。位牌や宗教の札を収める厨子を持ってきている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前の表札に名前が書いてあるが、それだけではわからない方もいる為目印となる花やぬいぐるみを設置したりしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300582		
法人名	社会福祉法人宮城福祉会		
事業所名	グループホームうぐいすの里こもれびの家	ユニット名	なし
所在地	宮城県栗原市南郷広面46		
自己評価作成日	令和 4年 10月 24日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 11月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設周辺には鶯沢診療所、学校(小学校・幼稚園・保育所)、鶯沢総合支所があり、医療・教育・福祉が一本化した環境になっている。コロナウイルス感染予防の為定期的に行われていた交流会や地区行事も中止になっているも、施設内で出来るレクリエーション活動を試行錯誤しながら行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>栗原市中央部を流れる二迫川沿いの集落の一角に法人の特別養護老人ホームや軽費老人ホームなどの福祉施設が建ち並び、その中に2ユニットのホームがある。職員は、入居者の日常の会話から思いを汲み取り、入居者の立場に立って個々のペースに合わせ支援している。ホームは家族のような暖かい雰囲気があり、入居者は職員と共に大きな声で笑い、楽しい日々を送っている。前回の外部評価で次のステップとして期待され、ホームの目標とした「身体拘束や虐待防止の事例検討を行う」ことについては、勉強会は行ったが実践に繋げるには至らなかった。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 うぐいすの里こもれびの家 )「ユニット名 なでしこ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見える所に提示している。各職員が確認する時間や振り返り(スタッフハンドブック)を行なっている	法人理念の「一人ひとりの毎日を明るく楽しく幸せにする」に基づいて、ユニットごと「楽しい思い出を作る」や「健康で明るく楽しく」の目標を作り支援し、明るい笑い声が響いている。4月に理念の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染対策の為、交流会等は実施できず。	地域行事の敬老会や夏祭りが中止になり参加できなかった。ホームの秋祭りに保育所の園児が訪れ、駐車場で遊戯を披露した。地域推進委員会に施設長が参加している。ボランティアがホームの草取りをしてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為、交流会等の参加機会はなく、地域との付き合いを築く事はできず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為、集まったの会議は行わず、資料配布のみとしている。	メンバーは小学校校長や幼稚園・保育園園長、区長、市職員、地域包括職員、民生委員等である。会議は入居者の状況や「うぐこも便り」等を配布し、意見をもらっている。意見に応え、食事のメニューを配った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話でのやり取りもあり事務手続きについても丁寧に教えて頂いている。包括支援センターからの利用者様の紹介などで協力を頂いている。	生活保護の入居者の状況確認に市の担当者が訪れる。市役所支所が道路向かいにあり、介護保険の書類の確認等に出向いている。市のケアマネ研修会等に参加している。地域包括から空き状況の問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス時(月1回)に身体拘束廃止の取り組み確認、状況確認、御利用者様の防止対策検討をおこなっている。	身体拘束廃止委員会のメンバーは施設長や事務長、生活相談員、ケアマネ、介護員、看護師である。リスク者の対応について報告しているが、グレーゾーンについて検討している記載が無く、身体拘束をしない取り組みの様子が見えない。	法人本部が作成している「うぐいすの里身体拘束廃止委員会」の資料に基づき、職員自身が日頃のケアについて振り返りを行い、現場の支援に反映させて頂きたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックリスト使い話し合いの場を設けたり、リーフレットを読んだりしている。	委員会では、「リスク者に対する対応」について個別の入居者への具体的対応を記録している。職員や入居者の話から虐待の疑いがある時は、個別に話し合うとしている。必要に応じて本部に相談するとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為外部研修へ行く機会が無く、プリンと配布などで周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語は使わず分かりやすい言葉で説明を行い、施設内の支援と援助についても御家族様に状況説明を行い同意をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様には2ヶ月に1回の広報誌や毎月の手紙を通じ日中の様子や行事の様子を伝え、電話にて意見を聴く機会を作っている。	食べ物や衣類等買って欲しい要望に職員が対応している。移動売店で好きなおやつを買っている。家族が食べさせたいと果物や紫蘇巻を持って来る。面会の制約があるが、窓越しの面会やリモート面会を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時に職員の希望や悩みを伝えていく。また、定期的に面談を開いている。普段の会話の中でも相談している。	トイレの誘導時間や声掛けのタイミングを共有し、排泄の自立支援に努めている。職員の意見で、コロナ禍の運動不足緩和のためラジオ体操を行った。扇風機を増やした。早番、遅番等シフトの調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長や管理者と面談を行なっている。また、正規職員への試験も年1回本部で行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、研修への参加は出来ない。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホーム管理者等に電話で相談したり、相談されてりといった繋がりを持っている。	法人の同業者と運営推進会議のやり方や「重度化や終末期の文書化」等の情報交換している。栗原中央病院から来てもらいコロナの研修を受けた。西隣の市立鶯沢診療所の看護師と連携し、受診の是非を相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学に来た際や、実態調査に伺った際にご本人様より施設への不安や要望などを確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に対しても同様、不安や要望を聴き安心していただけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の他にケアマネに連絡を取り合い、情報を頂き支援が出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常を通じてご利用者様が職員へ生活の知恵袋を教えて頂く事もあり、家庭的な雰囲気が出ている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や広報誌を出して日常生活や状態を報告している。必要に応じて電話連絡を行ない希望や要望を聴けるような体制を作っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会中止、制限があっても窓越しや電話で家族との繋がりが出来ている。	入居者が寿司屋をしていた時の弟子が「のり巻きの作り方を教えてもらった」と面会に来たことがある。馴染みの職員が理容師さんながらに毛染めをしてくれる。畑で育てた苺等を収穫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性等も考量し食堂の席を考えている。テレビを観たりレクを行なう際も考慮し穏やかに過ごせるように支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退所になっても面会に行ったり、ご家族様の状況によっては洗濯物や必要な物の購入を行ない関係が続けている。また、次の利用先も一緒に考えたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望に沿った支援を行なっているが、希望の伝えられないご利用者様についてはご家族に相談し支援を行なっている。	寿司や餡餅等を食べたい要望に誕生会等で提供している。薬を嫌がる人がおり、医師と相談し薬を減らすことができた。温泉のテレビを見て「さっぱり連れていけない」とのつぶやきを聞いて、入居者の思いを知った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話でご本人様に確認したり、面会時にご家族様から確認や話されたりすることもあり、そこで確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況や生活リズムに応じた生活を送っていただいている。日常生活での残存機能の維持に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見も聴き取り、介護計画を作成している。6ヶ月に一度のカンファレンスを実施し必要に応じて見直しを行い、ご本人様とご家族様に説明し了承を得ている。	入居者の担当職員がモニタリングし、皆で意見を出し合い計画作成担当者が計画をまとめる。歌好きな人が歌を披露する場を用意することを盛り込んだ。退院後、車椅子から歩行できるよう計画に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌記入とは別に連絡ノート・情報共有ノートを活用し、気づきや変更事項等を記入し職員全体が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況や要望に対応している。通院の付き添いや入院の送迎・洗濯・物品の購入など必要に応じてご家族様の代わりに行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域とかかわる機会がなかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には施設の協力病院の受診、希望があれば希望された病院を受診している。月1回の定期受診、在宅診療所の往診を受けている方もいる。	かかりつけ医受診が3名であり、訪問診療受診が1名、協力医受診が14名である。眼科、皮膚科等専門医受診の人もいる。付き添いは職員が行う。隣接の市立鶯沢診療所の看護師や法人の看護師の支援が得られる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師が常駐していない為、併設している特養看護師と連絡を取りながら協力して頂いている。インスリン注射に来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会は出来ないが洗濯物を取りに行った際に状況を伺っている。退院に向けて等の話し合いにはご家族様と共に職員も話しを聞き指示をもらうようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する説明は状態の変化に応じてその都度説明を行なっている。家族の希望も出来る範囲で受け入れ施設として出来る事出来ない事の説明を行なっている。	目標達成計画の「重度化や終末期に向けたケアについて家族への説明の統一」は、文書化して説明を明確にしている。看取りは実施していない。入浴や排泄時に上体を維持できなくなったり、ゼリー食も難しい状態になると医師や家族と相談し入院や特養を勧める。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル作成し連絡方法や対応について確認している。一人一人の情報を一覧にし全職員が確認出来るようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難時に歩行か車椅子が分かるように表示している。非常食の種類等を栄養士と相談しながら準備している。	夜間想定を含め避難訓練を2回実施している。夜勤者役や見守り等の役割を定めて、実際に即した訓練に努めている。水消火器による消火訓練も実施している。地域住民の参加はコロナ禍が収まれば期待できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレと言う言葉を使わないで誘導できる声掛けを工夫している。居室の出入りにも配慮している。	姓や名にさん付けであるが、ちゃん付で呼んで欲しい人もいる。「トイレへ」でなく「ちょっとお願い」等誘っている。物盗られ妄想のある入居者の支援は、その人の居るところで部屋に入り、配置を変えないように留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単に選択できるように声掛けや対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション活動の参加も本人に決めて頂き、誘導についても本人のペースに合わせて介助に入っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談しながら決めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、利用者様に調理や盛り付け等は入っていただいていない。誕生日には好きなメニューを取り入れる様にしている。	朝は配食業者を利用し、昼食や夕食は職員が作っている。入居者は天ぷらや刺身等が好きである。月曜と木曜は自由メニューの日として、ハットやおにぎりを作っている。秋祭では中庭で豚汁やさんま、焼き芋を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食形態に合わせて管理栄養士と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分んで出来る方には声掛けしながら自分でしてもらい、介助が必要な方には職員が行なっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのサインを理解し誘導や支援につなげている。サインを知ることで汚染を防げることもある。	ソワソワのサインを見てトイレに誘導したり、「便所に行ってくる」と立つ人にさりげなく寄り添って支援している。入居時に紙パンツだった人が、適切な誘導で布パンツに改善できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることなく、身体を動かしたり水分補給や乳製品を勧めたりしている。ゼリーで対応したりしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時間は決まっているが、時間や希望を聞きながら支援している。拒否がある方に対しては声掛けを工夫したり、時間を変えたりし対応している。	2日に1回入る。バスタオルで肌を隠す等プライバシーに留意している。脱衣所は床暖とパネルヒーターでヒートショックに配慮している。入浴を拒否する人には時間を置いたり、職員を変えて「体重を計ります」等と誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごす方もいれば、娛樂室にて過している方もいる。本人が過ごしたい場所で過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルにまとめ誰でも確認出来るようにしている。変更があった場合は情報共有ノートを使用し把握につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族等から生活歴を聞きながら支援に活かしている。誕生会には本人に確認し好品を提供している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、買い物・外出支援は出来ない。天気の良い日には玄関先や中庭へ散歩へ出掛けている。	気候のいい日は広い中庭を散歩している。外出制約の中、運動不足を軽減するためラジオ体操を毎日実施している。外気浴や外の景色を眺めるドライブ等について、実施できるよう工夫して頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫に預かっている、必要な物を担当職員話してくれ購入してきている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおり、自由に利用されている。また、家族様から電話があった際は本人にもかわり声が聞けるようにしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはレクリエーション活動で作成した物を飾っている。風や光を嫌がる方がおりカーテンを閉めたり換気の窓に配慮している。	時計や暦を見やすい場所に設置している。雪だるまの貼り絵やハロウィンのお化けを皆で作って壁に飾っている。もらった柿を皆で皮をむいて干し柿を作った。差し入れのタケノコを皮むきた。畑の苺等の収穫をした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で一人で過ごしたり、廊下の畳ベンチで過ごしたりしていただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや家族の写真・仏壇を自由に持ち込みして頂いている。コタツや椅子を持ち込み過ごしている方もいる。	エアコンや押し入れ、洗面台、トイレが備えてある。居室前に表札のほか、目印となる花や縫いぐるみを下げている。位牌や宗教の札を収める厨子を持ってきている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に表札はあるが、それだけでは分からない方もおり目印となる花やぬいぐるみを設置したりしている。		